

# 北の国からのさわやかな発信！

北海道札幌大会実行委員会委員長 小西雅夫

第57回放送教育研究会全国大会北海道札幌大会は、全国放送教育研究会連盟が主催し、運営を北海道地方放送教育研究協議会が担当して、10月13日、14日の2日間開催されました。2日間の参加者は、延べ人数で千七百人を越えており、各会場で熱心な研究討議が繰り広げられ、多くの成果が得られた実り多い大会となりました。

大会第1日目は、各会場園・校別に公開保育・授業が行われました。幼・保は1園で5つの公開保育、小学校は3校で25の公開授業、中学校は1校で12の公開授業、高校は1校で2つの公開授業、特殊教育諸学校は2校で2つの公開授業が行われ、全体では、5校種全てで会場が設定され、1園6校の会場園・校で46の公開保育・授業が行われました。

私たちは、放送教育研究の原点が、「学校放送番組に秘められている教育特性や有効性を検証する」ことにあると押さえ、たとえ、革新的な技術が導入され、新しいメディアが誕生しても、この原点は揺るぎのないものであるとの基本的な立場に立って、北海道札幌大会を運営してきました。

そして、この度の全国大会では、教育における地上デジタルテレビ放送活用の可能性を探り、各教室のブロードバンド環境をいかに活用するかなどの実践事例を紹介することを通して、今までの放送教育の実践研究で得られた、番組研究、園児・児童・生徒の保育や授業への関心を高めることや指導内容の定着などに対する「学校放送番組に秘められている教育特性や有効性を検証する」とともに、未来の授業と新しい学校の創造のための新たな出発点となるような場にしたいとの願いのもとに、全ての校種で実践研究を重ねてきました。

学校放送番組を利用することにより、子どもたちが目を輝かせて見入り、しなやかな感性が培われ、自分でもやってみたいという気持ちにさせられて学習意欲が高まるという効果は、番組を利用している人なら誰でもが認めるところです。映像のもつ魅力については、誰しもが知り尽くしているにもかかわらず、授業などでの活用の機会が少ないのは、学校放送番組という素晴らしい教材の存在自体が、教育に携わる多くの方に、十分知られていないからだと考えられます。これからは、学校放送番組のよさや効果を知ってもらい、見てもらい、そして、使ってもらうための広報活動や普及活動に重点をおくべきではないかと考えております。

私たちは、『「輝く瞳 感じる心 学ぶ喜び」をどの子にも』との願いから放送教育の実践研究を推進し、北海道からその成果をさわやかに発信しようと努めてまいりました。しかし、実践の進め方の稚拙さや研究の深まりの不足に加え、運営面などで至らないところが多々あったことと存じます。お気づきのことは、ぜひ、ご指摘いただくとともに、ご指導くださいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、この度の全国大会開催にあたり、適切にご指導をいただいた全国放送教育研究会連盟、ご支援を賜りました北海道教育委員会様並びに札幌市教育委員会様をはじめ各種機関・団体の方々、全国各地からご参加くださいました皆様、また、ご多忙の中、公開保育・授業を引き受けていただきました各会場園・校の皆様、貴重な時間と労力と知恵をご提供いただきました関係の皆様方に、心からお礼を申し上げます。